

8.8 石綿含有建材片H (最大厚さ : 6.7mm)

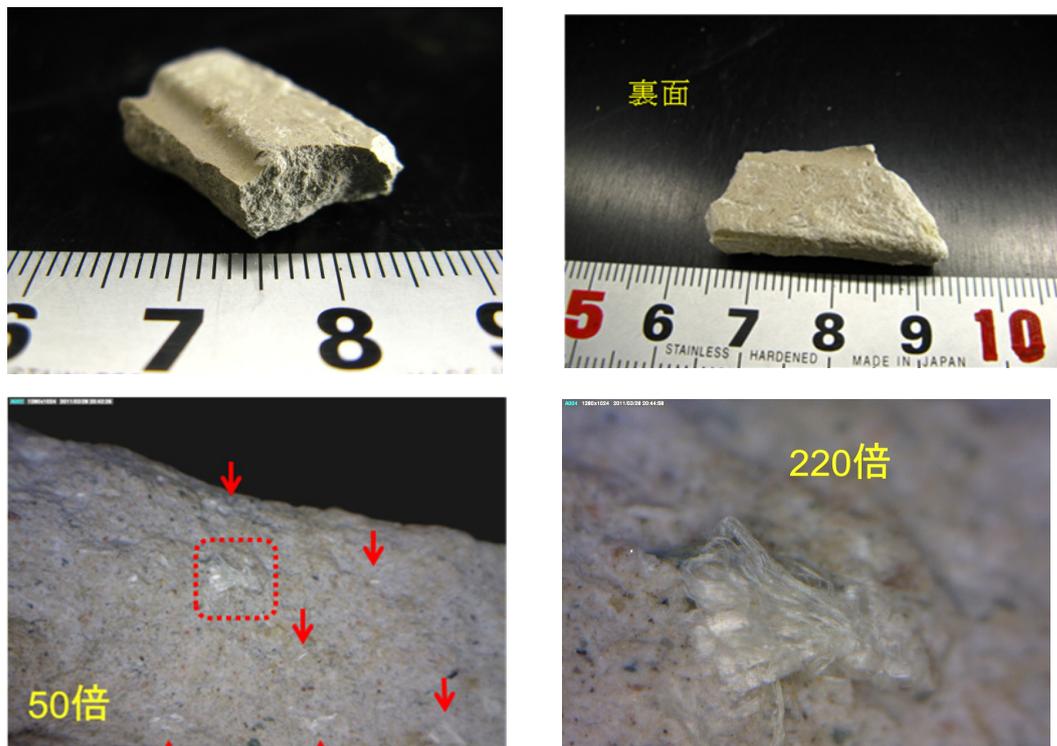


図 8.8 外壁材片 (サイディング)

8.9 石綿含有建材片I (厚さ : 11.8mm)

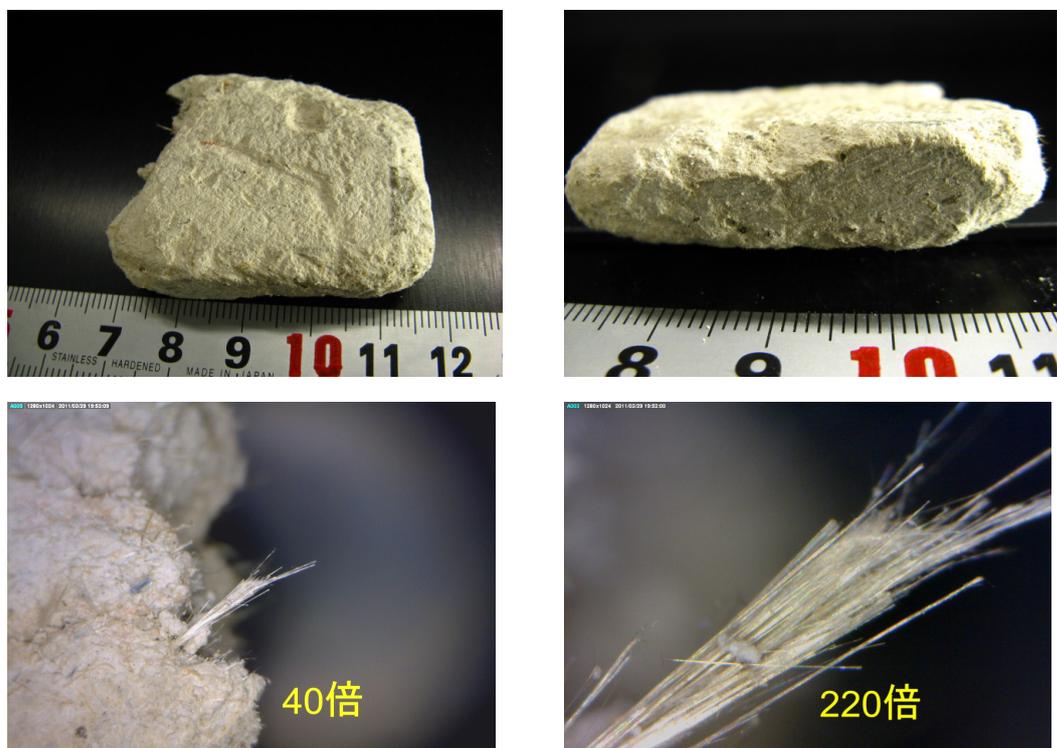


図 8.9 耐火被覆材片 (アモサイト含有 ; ケイ酸カルシウム板)

8.10 石綿含有建材片 J (厚さ 6.8mm)

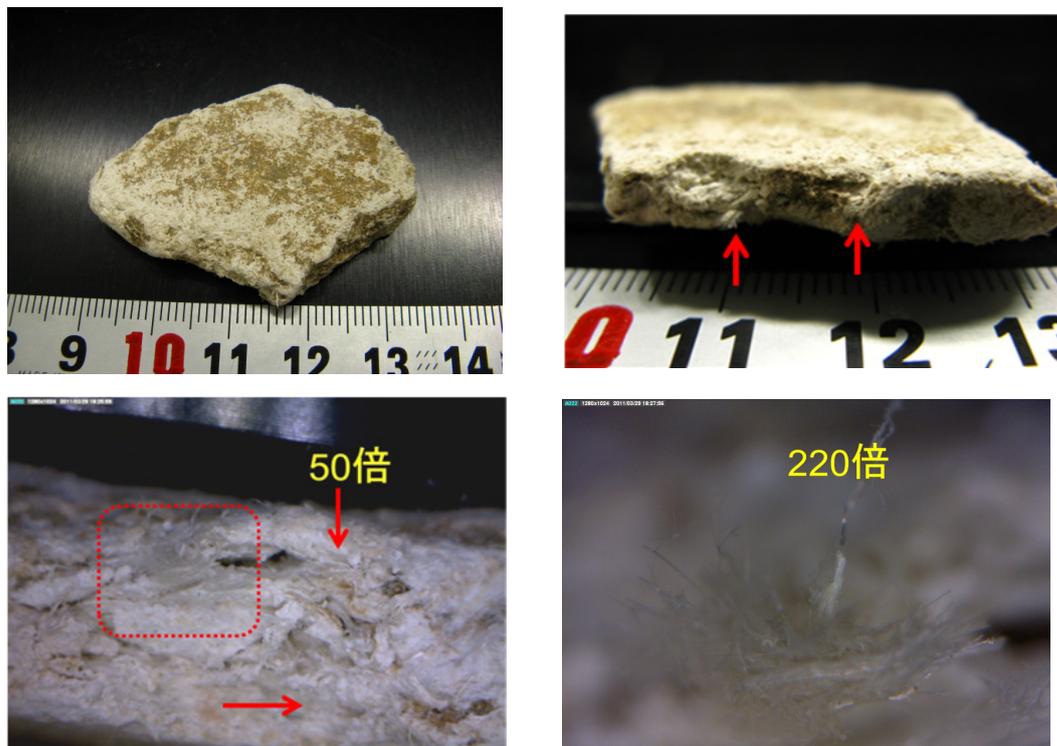


図 8.10 内装材片 (ケイ酸カルシウム板又は石膏板；表面に塗装の痕跡)

8.11 石綿含有建材片 K (厚さ 8.5mm)

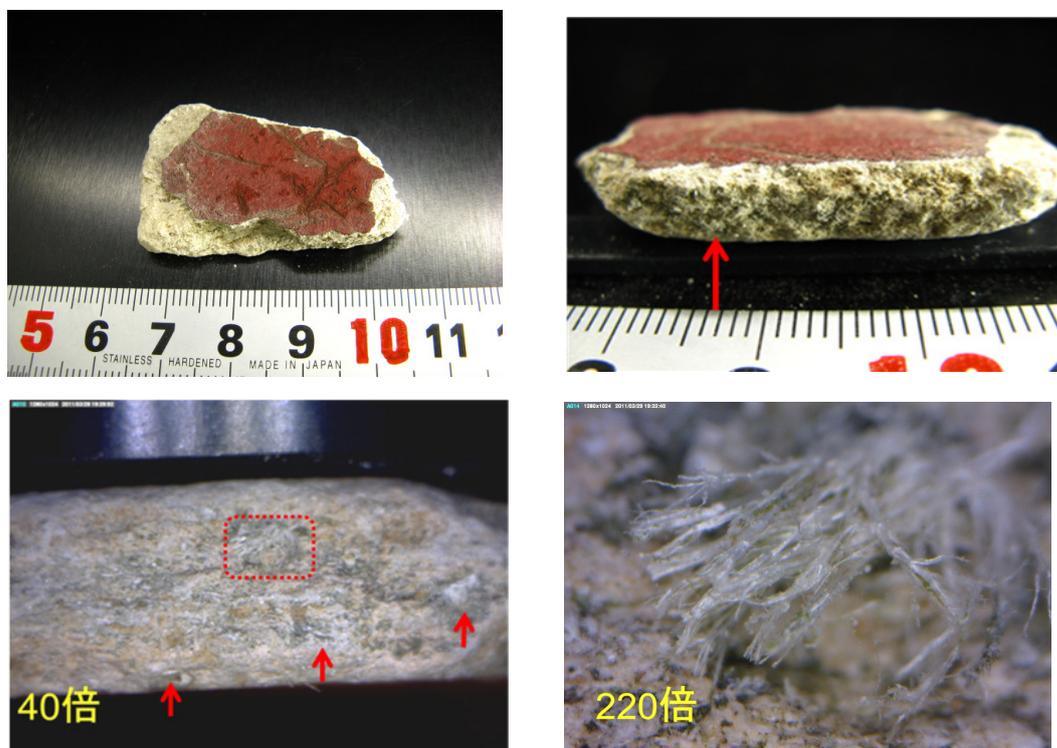


図 8.11 外壁材片又は水回り (表面加工が陶磁器のようである。母材は若干柔らかい)

8.12 石綿含有建材片 L (厚さ 6.6mm)

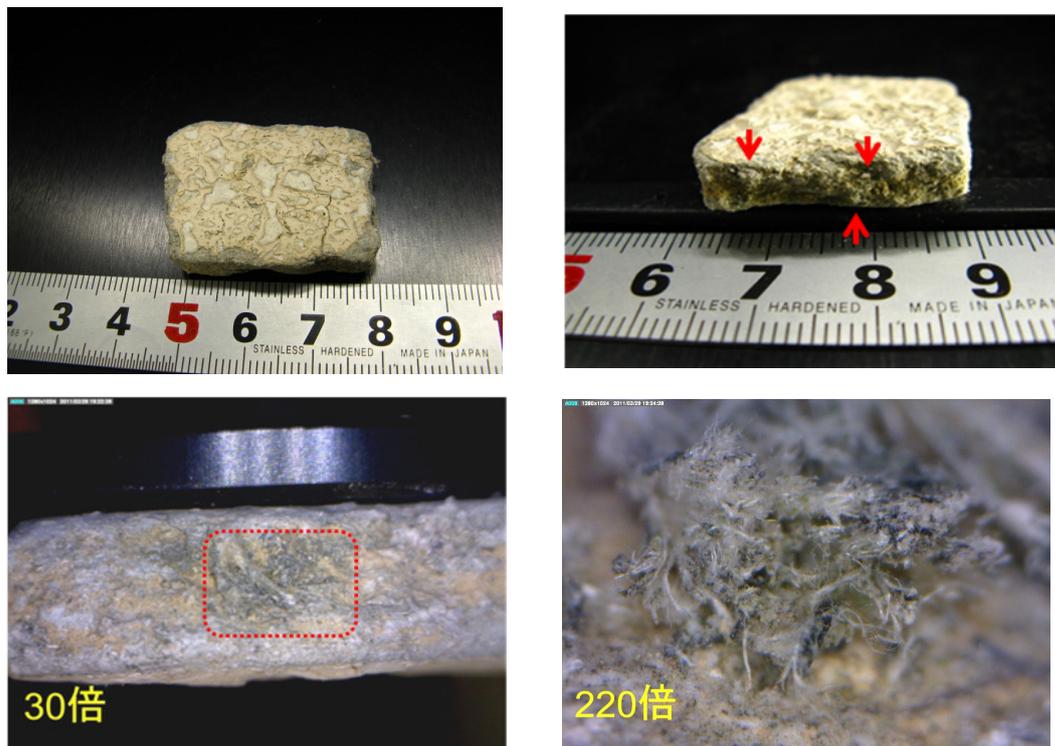


図 8.12 一般家屋外壁材片 (表面は吹き付け塗装)

8.13 石綿含有建材片 M (厚さ 3.0mm)

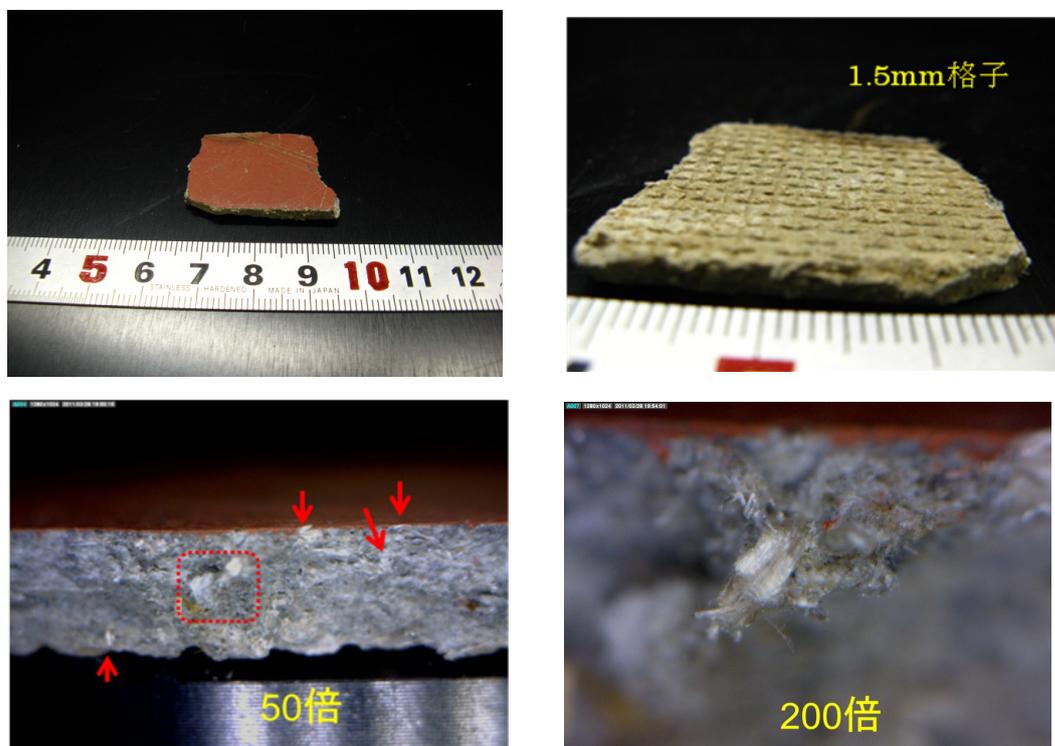


図 8.13 水回り又は床、内装材片 (表面は焼き付け加工 ; 防水性高い)

8.14 石綿含有建材片 N (厚み 3.7mm)

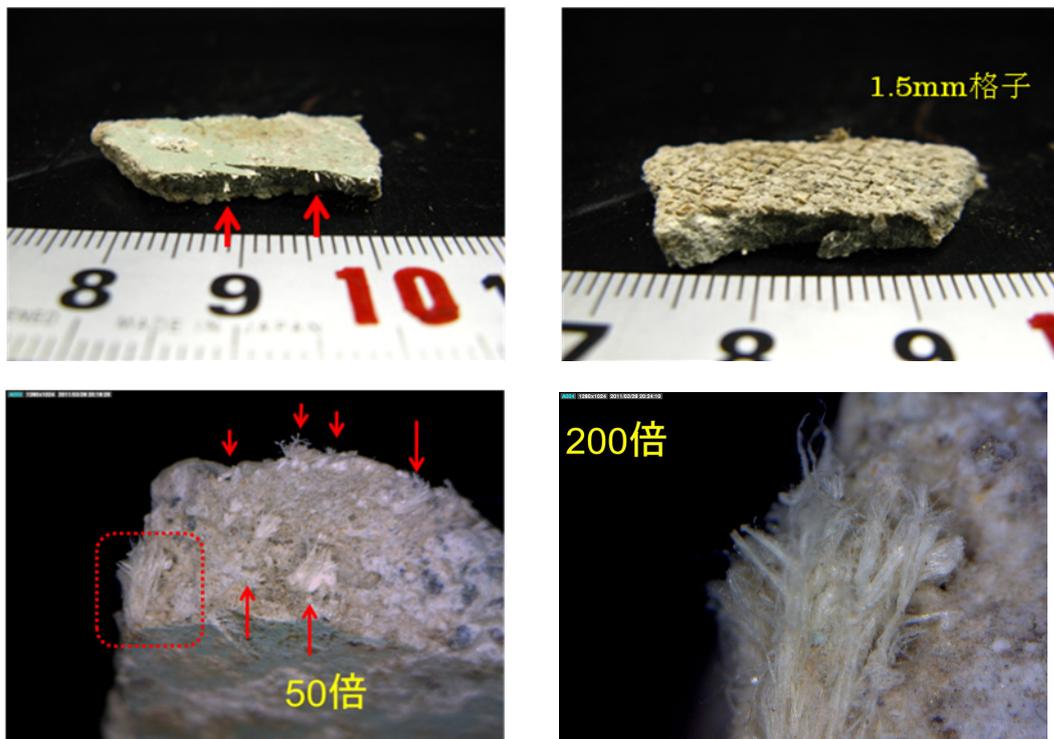


図 8.14 内装材片 (標準的な塗装)

8.15 石綿含有建材片 O (厚さ 5.8mm)

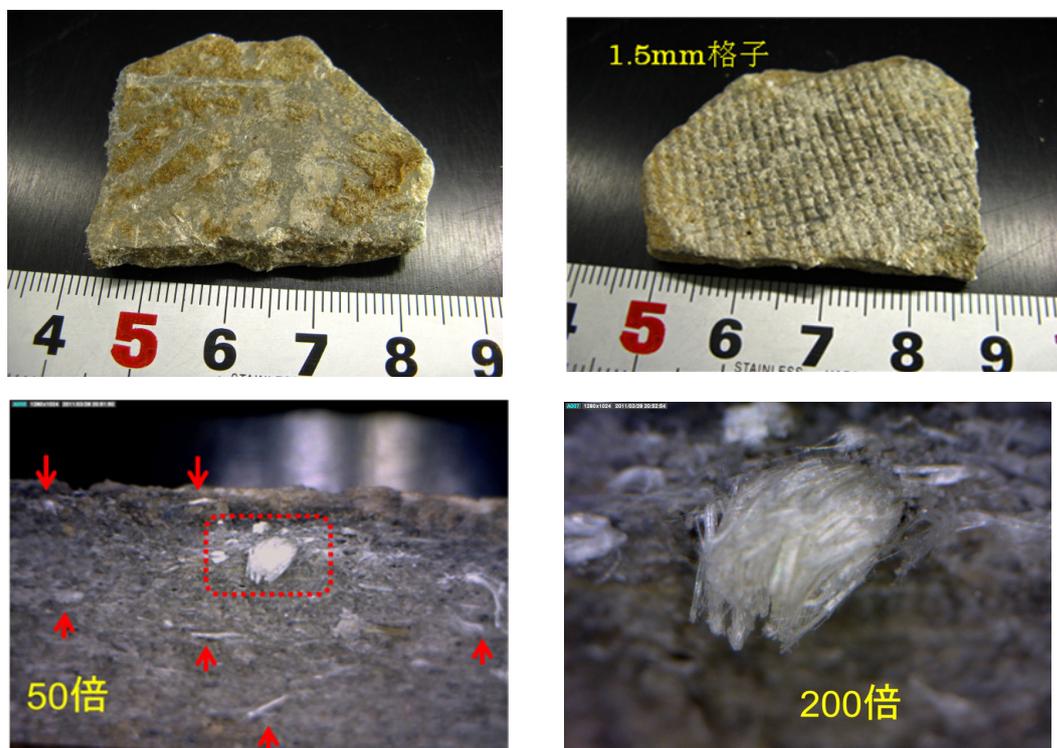


図 8.15 内装材片 (表面に糊の残りあり)

8.16 石綿含有建材片 P (厚さ 4.3mm)

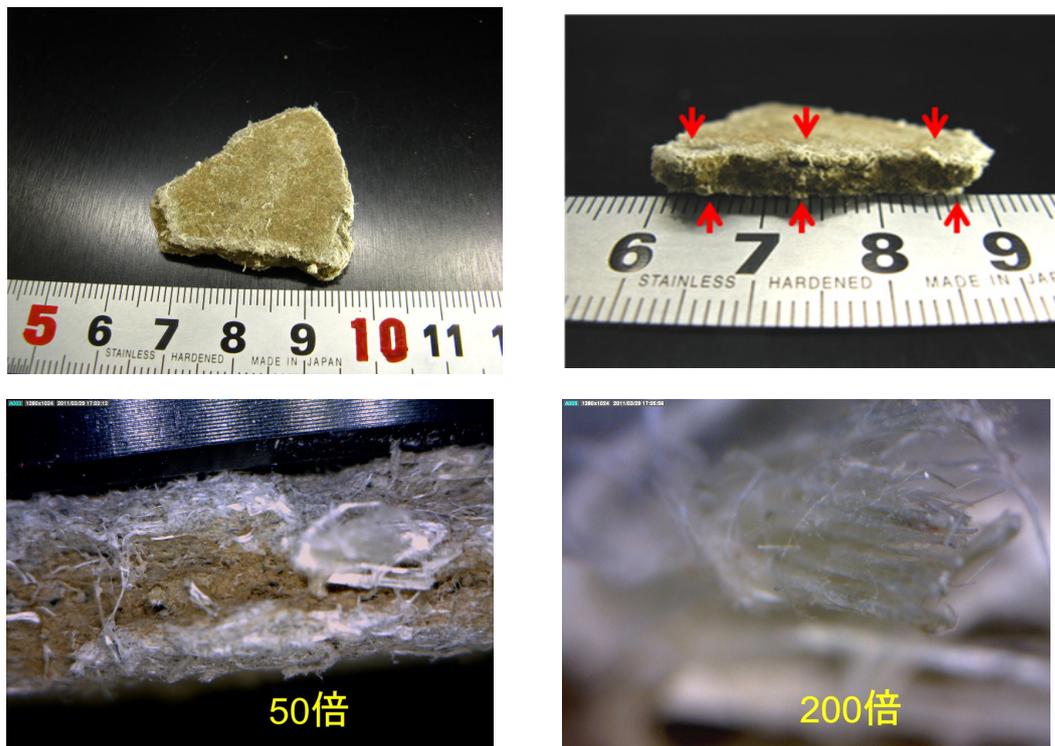


図 8.16 内装材片 (比較的柔らかい建材)

8.17 石綿含有建材片 Q (厚さ 8.2mm)

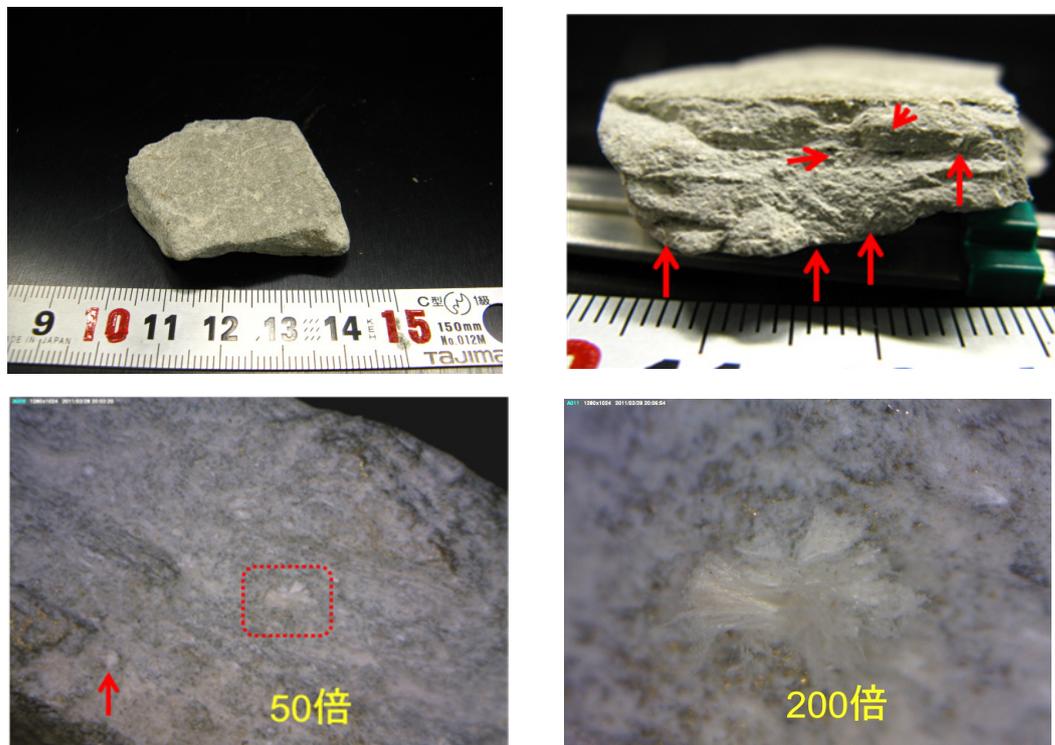


図 8.17 外壁材片 (セメントスレート、硬い建材)

8.18 石綿含有建材片 R (厚さ 5.0mm)

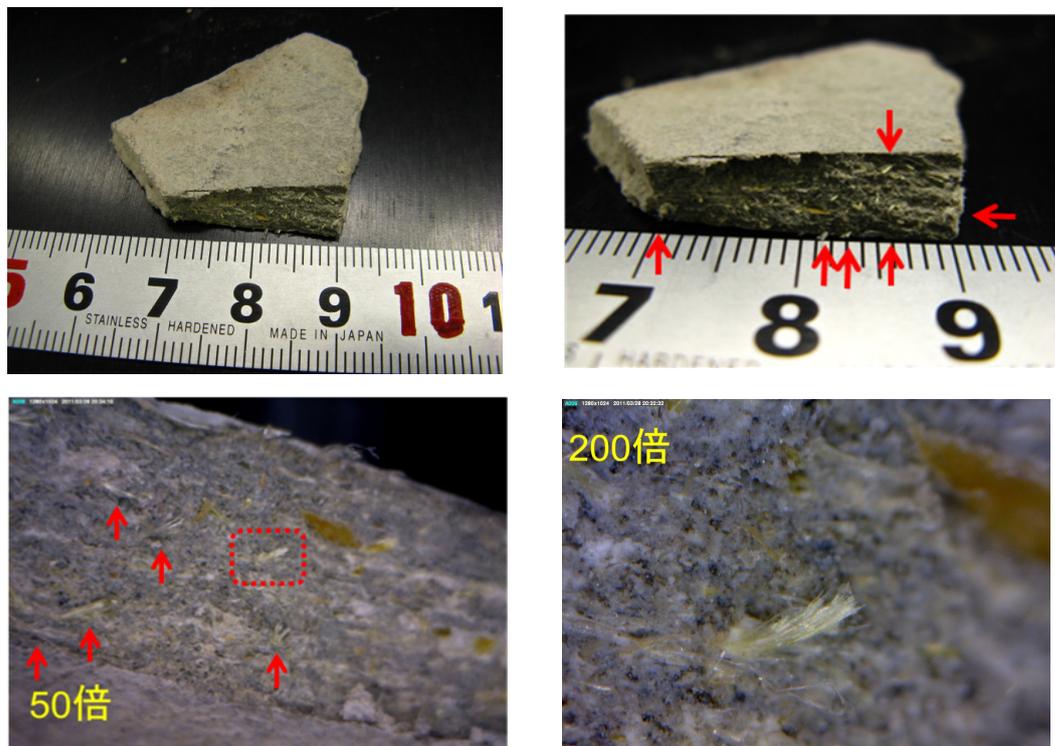


図 8.18 外装材片 (モルタルスレート、比較的硬い建材)

8.19 石綿含有建材片 S (厚さ 13.2mm)

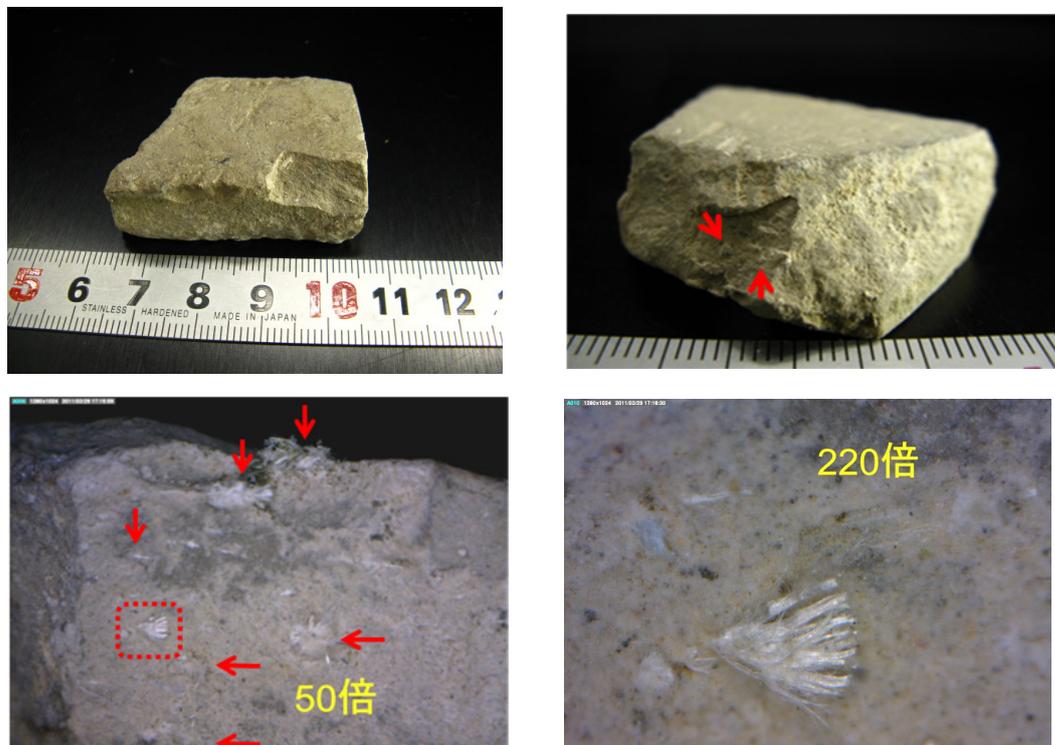


図 8.19 外装材片 (セメントスレート、硬い建材)

8.20 石綿含有建材片 T (厚さ 11.5mm)

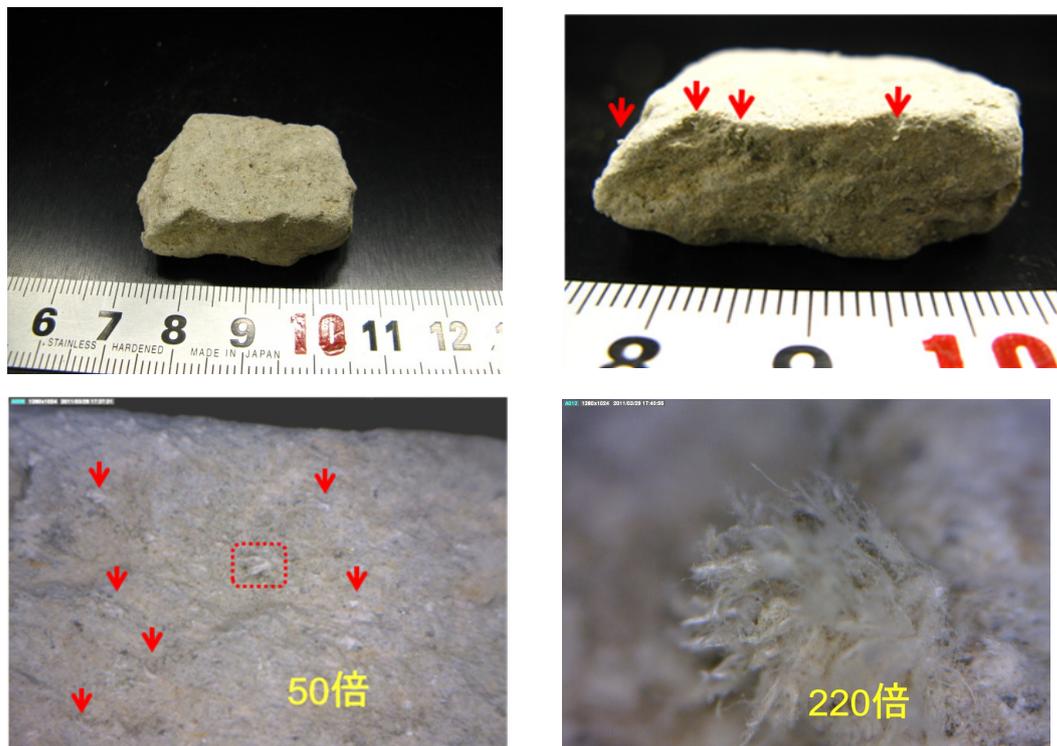


図 8.20 外装材片 (セメントスレート、硬い建材)

8.21 石綿含有建材片 U (厚さ 9.0mm)

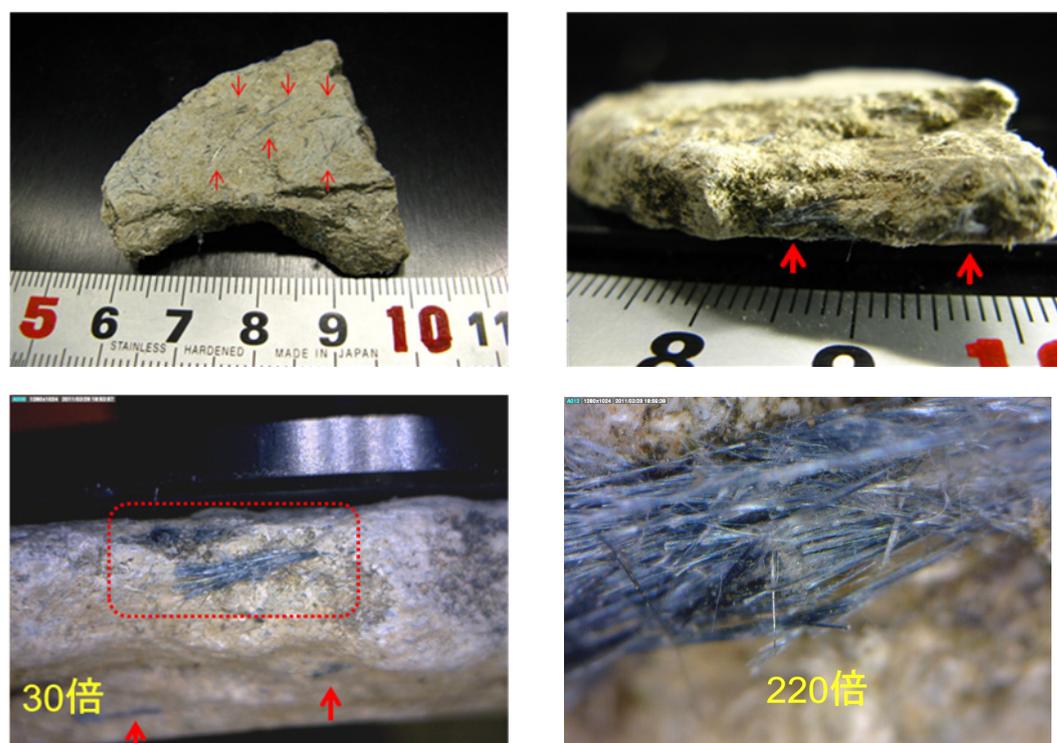


図 8.21 外装材片 (平板、クロシドライト及びクリソタイル入り)

8.22 石綿含有建材片 V (厚さ 9.5mm)

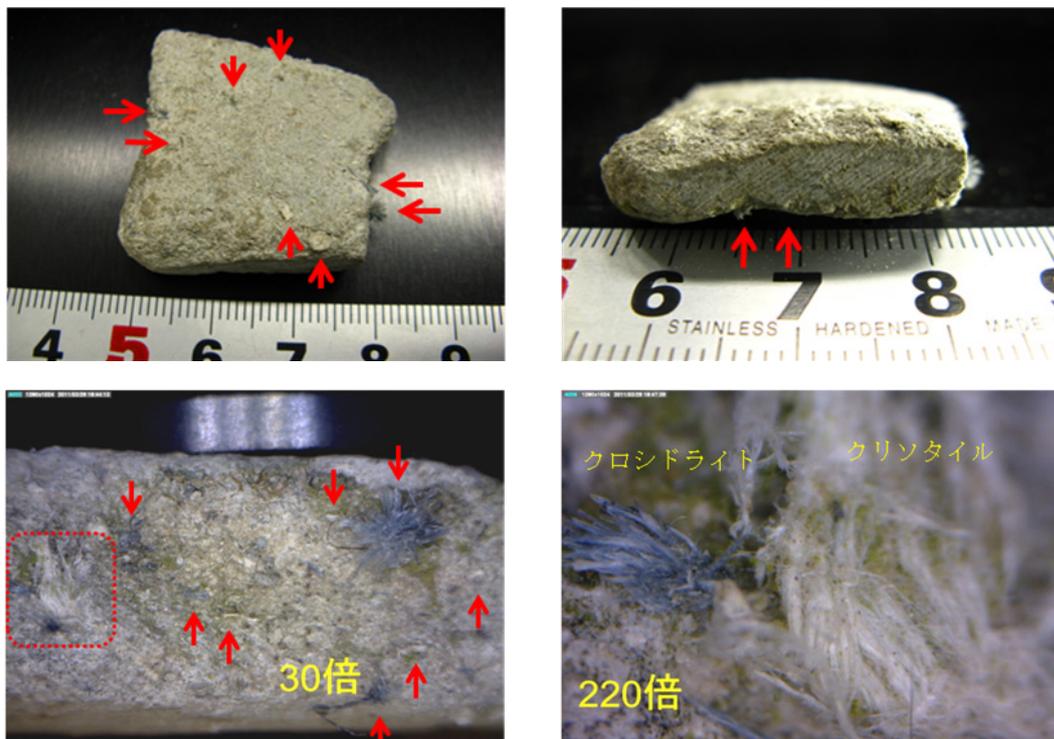


図 8.22 外装材片 (波板、クロシドライト及びクリソタイル入り)

8.23 石綿含有建材片 W (厚さ 5.7mm)

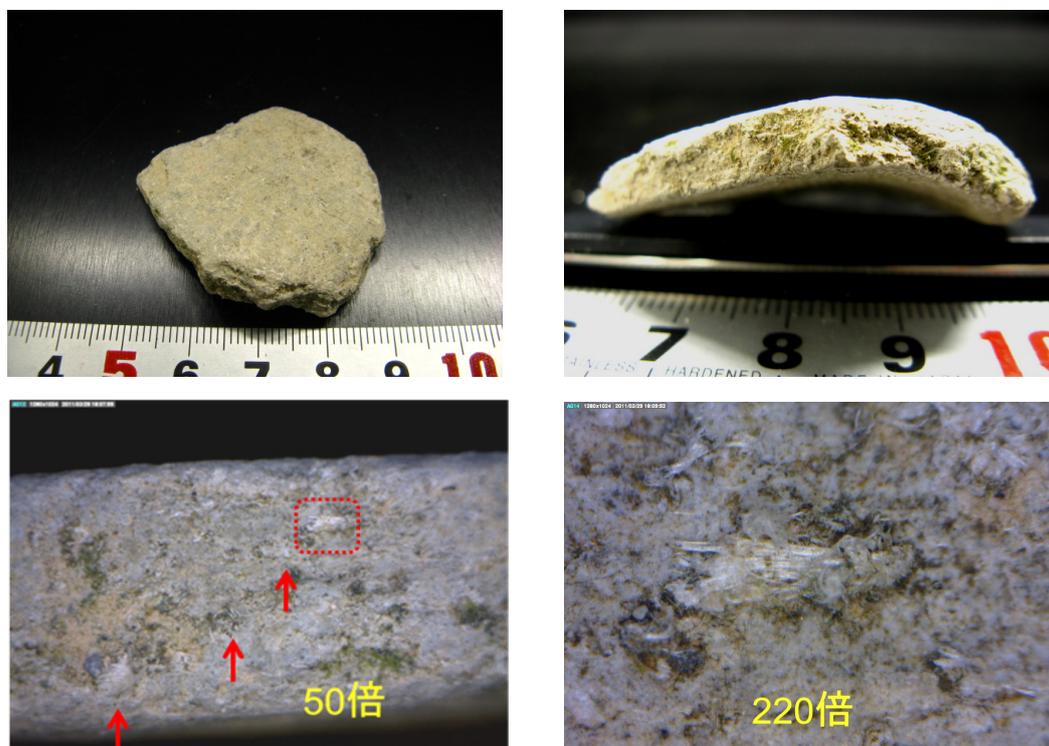


図 8.23 波板片

8.24 石綿含有建材片 V (厚さ 4.9mm)

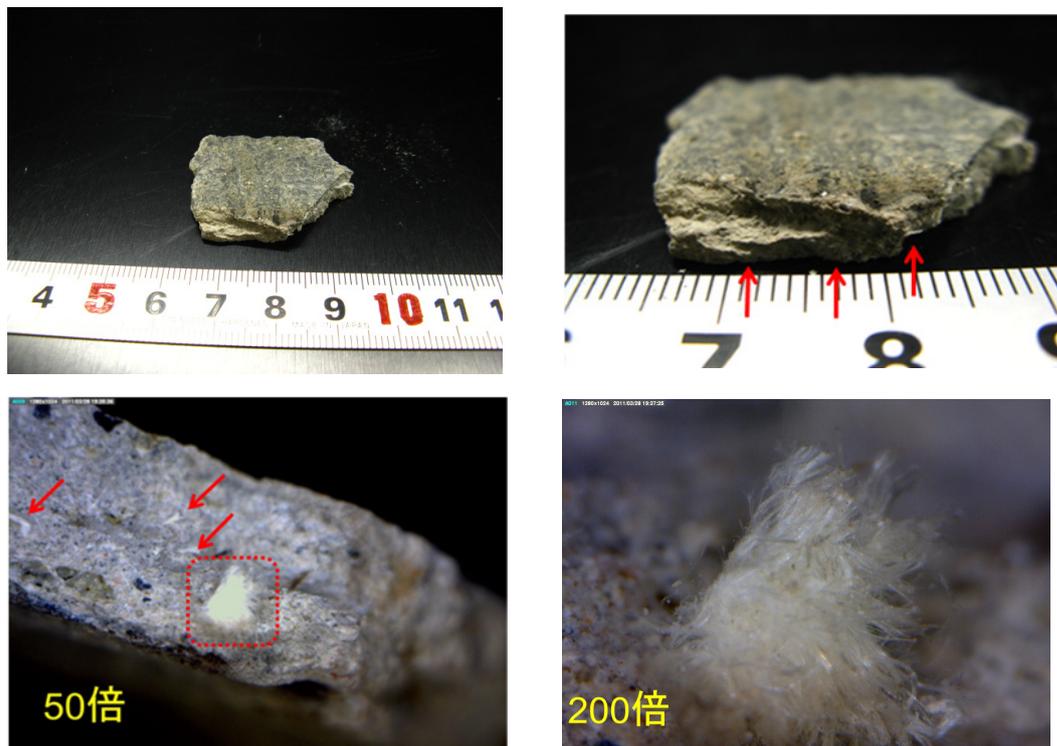


図 8.24 住宅用化粧屋根瓦片 (コロニアル)

8.25 石綿含有建材片 W (厚み 5.5mm)

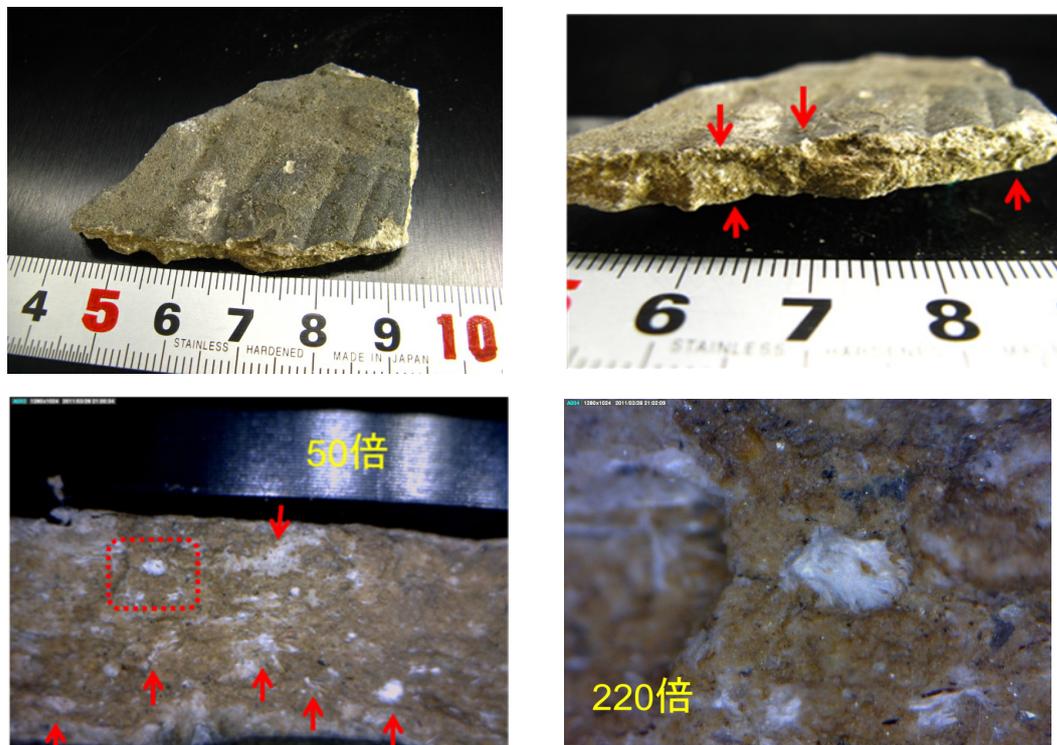


図 8.25 住宅用化粧屋根瓦片 (コロニアル)

9. アスベスト含有量と建材断面の繊維束

建材断面に観察されるアスベスト繊維束は、アスベストの含有量や束の大きさによって、見え方が違ってきます。以下に含有量の異なるアスベスト含有建材の断面を倍率を変えて示します。

表 9-1 は、それぞれの写真の建材の種類と使用箇所、特徴等を示しています。また、アスベスト以外の繊維との見分けが難しい建材はバーナーで炙って撮影しています。表中のバーナー使用欄の「有り」はバーナーで炙ったものです。

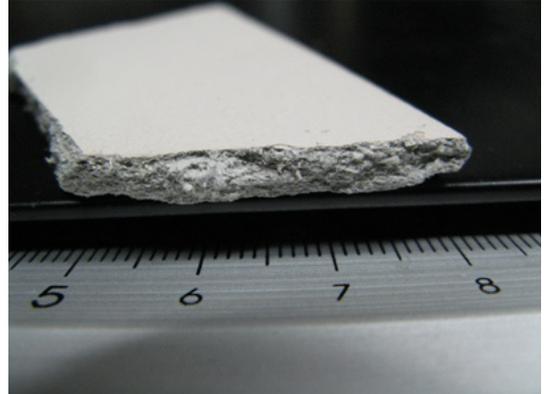
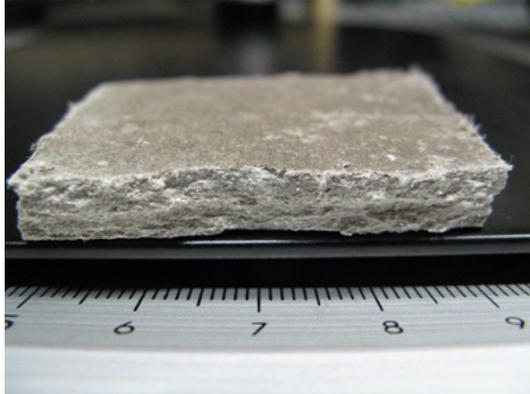
表 9-1 アスベスト含有建材の種類

試料No.	建築物	使用箇所	厚さ(mm)	バーナー使用	特徴
1	工場	外壁(スレート)	5.9	無し	表面グレー、内部グレー
2	職員寮	天井(大平板)	4.1	無し	表面白、内部グレー
3	一般住宅	内装(スレート)	5.0	無し	表面白、内部グレー
4	一般住宅	軒天	4.0	無し	表面白、内部白
5	居酒屋	内装	5.1	有り	表面薄黄、内部白、軽量、繊維多
6	共同住宅	軒天	5.9	無し	表面赤、内部グレー
7	一般住宅	台所の壁	3.1	無し	表面緑柄、内部茶褐色
8	一般住宅	内壁	5.2	有り	表面茶、内部白、軽量
9	一般住宅	内壁	6.6	有り	表面クリーム色、柔らかく手で層状に割れる。軽量
10	一般住宅	屋根(コロニアル)	4.8	無し	表面黒、内部グレー
11	一般住宅	内壁	5.0	有り	表面グリーン、内部白
12	一般住宅	屋根(コロニアル)	4.9	無し	表面エンジ、内部グレー
13	事務所	外壁(スレート)	5.5	無し	表面黒～グレー、内部グレー
14	工場	屋根(波板スレート)	5.5	無し	表面グレー、内部グレー
15	一般住宅	屋根(コロニアル)	5.0	無し	表面黒、内部グレー
16	不明(住宅)	(外壁)	5.6	無し	表面黄、内部グレー
17	不明(住宅)	(外壁)	5.2	無し	表面木目(黄)、内部グレー
18	不明(住宅)	(外壁)	5.6	無し	表面木目(茶)、内部グレー

No.1 含有率 3.7%

No.2 含有率 6.9%

デジタルカメラ写真



20倍



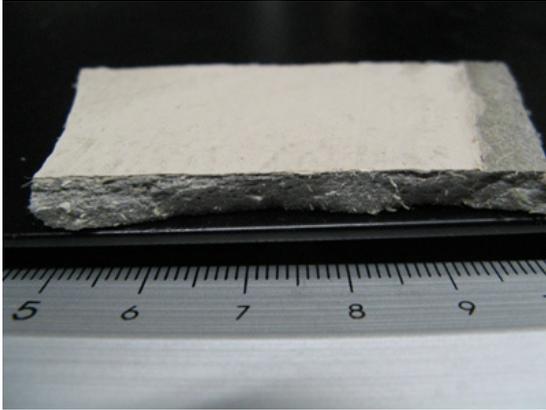
220倍



No.3 含有率 5.7%

No.4 含有率 6.2%

デジタルカメラ写真



20倍



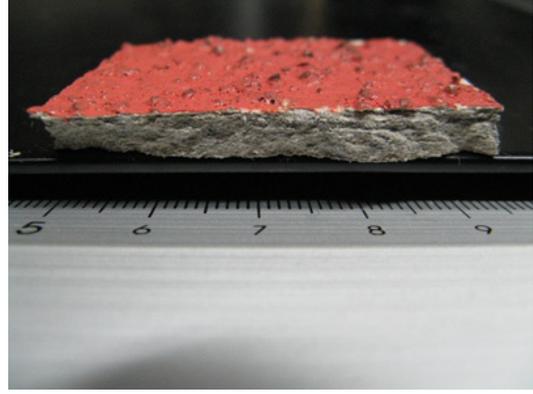
220倍



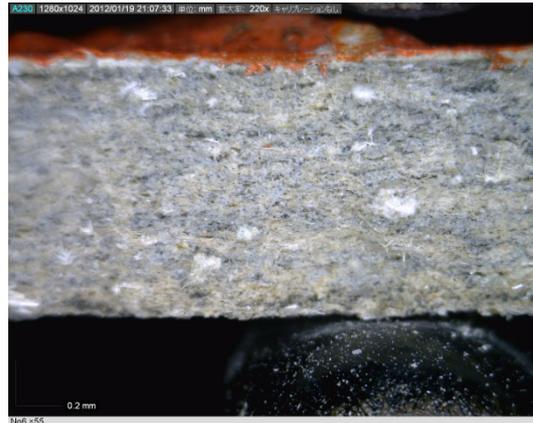
No.5 含有率 4.7%

No.6 含有率 5.2%

デジタルカメラ写真



20倍



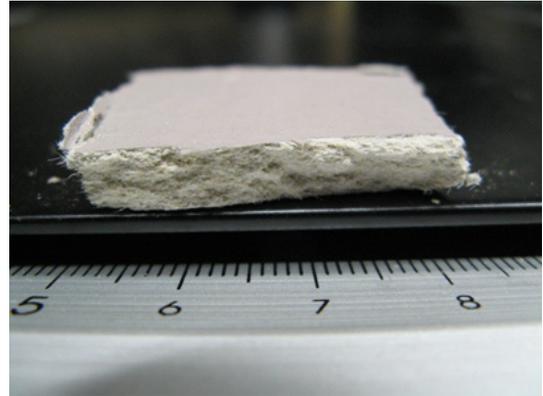
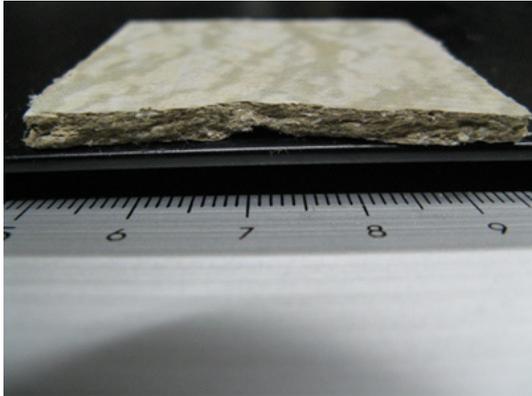
220倍



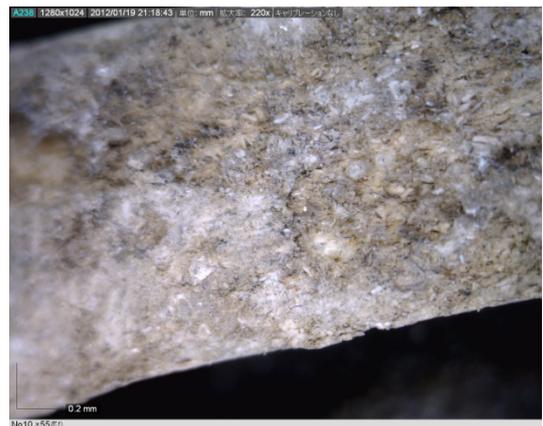
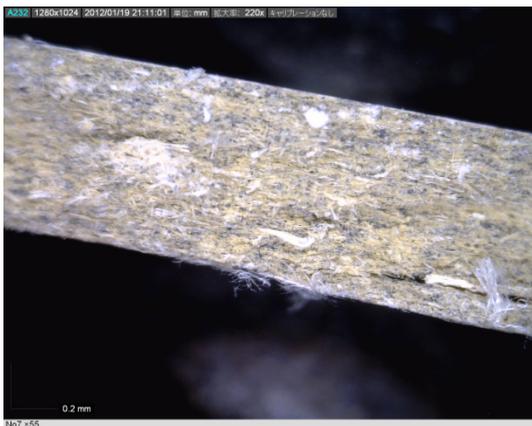
No.7 含有率 8.3%

No.8 含有率 0.6%

デジタルカメラ写真



20倍



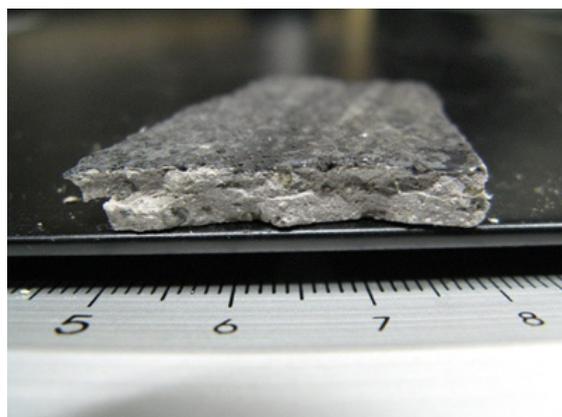
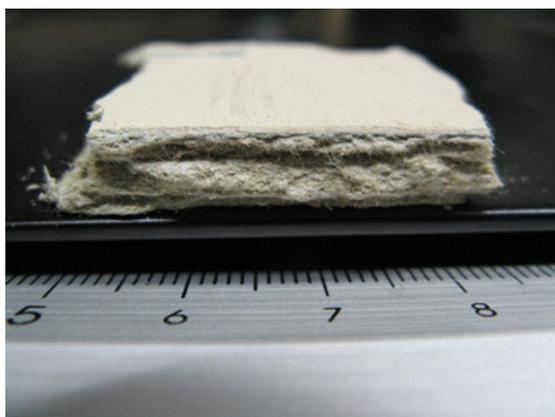
220倍



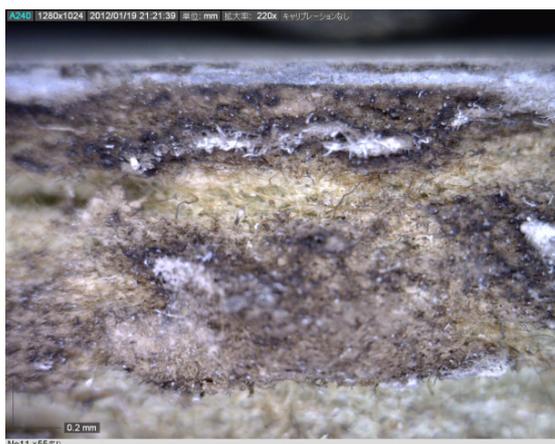
No.9 含有率 2.2%

No.10 含有率 4.6%

デジタルカメラ写真



20倍



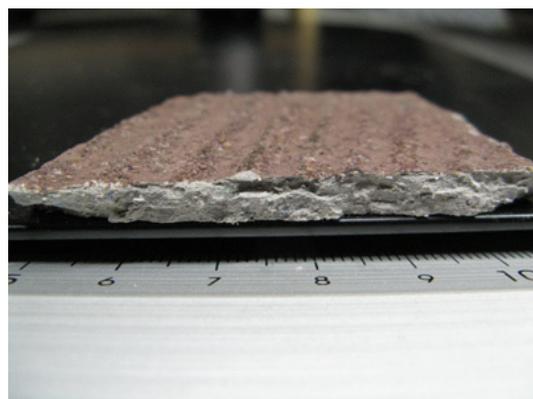
220倍



No.11 含有率 3.3%

No.12 含有率 6.3%

デジタルカメラ写真



20倍



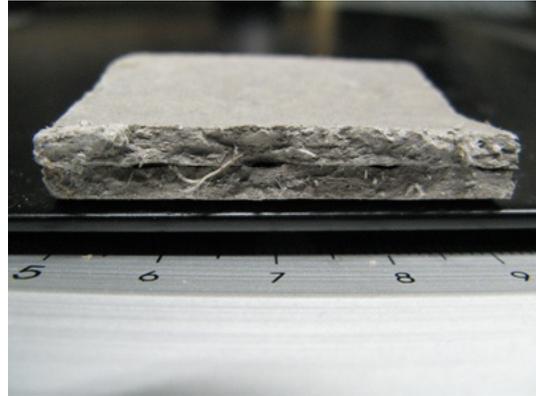
220倍



No.13 含有率 3.8%

No.14 含有率 4.8%

デジタルカメラ写真



20倍



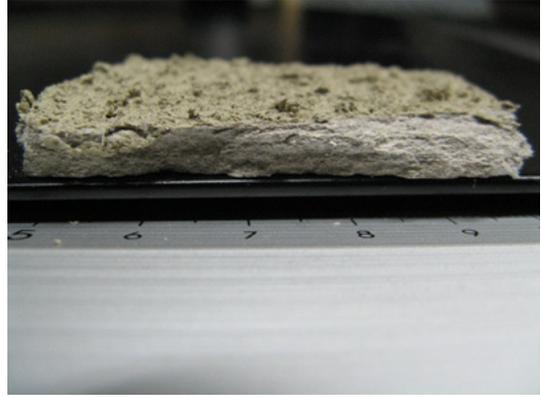
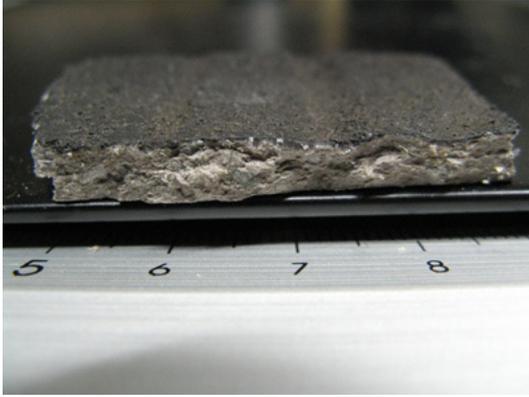
220倍



No.15 含有率 3.5%

No.16 含有率 4.2%

デジ
カメ
写真



20倍



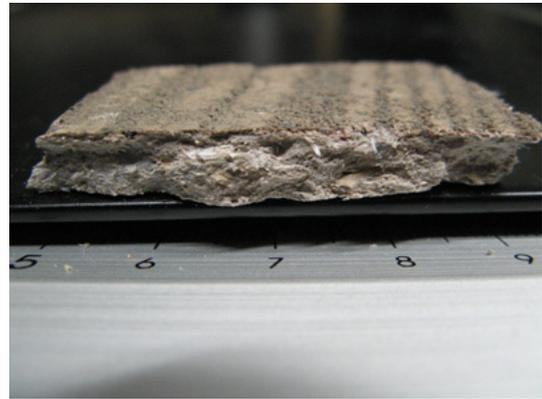
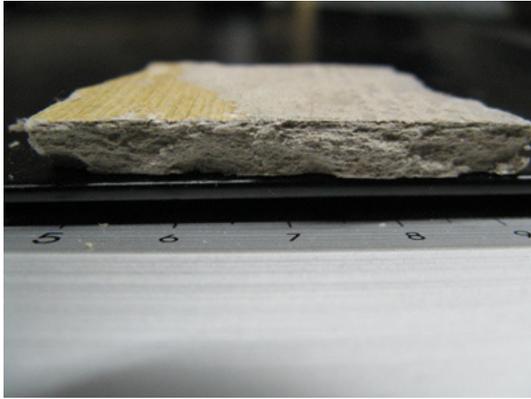
220倍



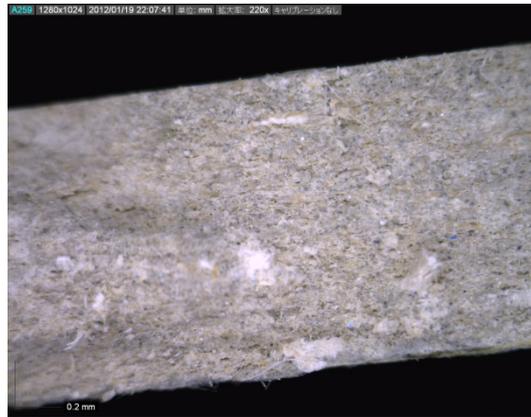
No.17 含有率 1.7%

No.18 含有率 6.7%

デジタルカメラ写真



20倍



220倍



10. まとめ

解体現場や中間処理現場及び再生砕石使用現場を見る限り、再生砕石への石綿含有建材の混入を避けるためには、それぞれ次のような対応・対策が考えられます。

〔解体現場〕

- ・波板及び住宅用化粧屋根瓦（コロニアル）は古い建築物の場合、ほとんどが石綿含有建材です。また、容易に判別できるため、確実に分別、適正処理を行います。
- ・外壁材、セメント系（硬質）のスレート板は厚さにかかわらず、一部破断面から石綿の有無を観察し、含有建材の場合、確実に分別、適正処理を行います。
- ・内壁材及び軒天等（比較的軟質のスレート平板）、これらの建材は観察しづらい場合が多いので、簡易バーナーやインク等を用いて、破断面をじっくりと観察する。判断がつかない場合は、分析会社に依頼し JIS 法による分析を行い石綿含有の有無を確かめます。または、石綿含有建材として見なし処理を行います。
- ・手ばらしによる解体を行ったとしても、全く破砕せずに石綿含有建材を除去することは不可能であり、地面に破片が落ちていることが多いです。また、解体以前に壊れ、その破片が下に落ちている場合もあります。特に、縁台の下などには非常に古い石綿含有建材破片が捨てられている場合も多いので、石綿含有廃棄物搬出前に、解体現場周辺地面の確認も忘れずに行う必要があります。

〔廃棄物中間処理施設及び再生砕石製造施設〕

- ・搬入物検査の徹底が重要です。荷台やコンテナ上部から見るだけでなく、荷をできる限り、広く、薄く広げ確認するべきです。特に、がれき類の中にわずかな破片が混ざっている場合は、板状のものに特に注意し、一片あれば、必ず他にも混じっているはずなので、選別ラインに投入する前に徹底的に除くべきです。
- ・再生砕石原料及び再生砕石製品の出荷時においては、石綿含有建材片のチェックは当然のことです。また、他の廃棄物も同時に拾い集めるべきです。これまでの経験上、ごみが多い（多いと行っても重量含有率は数%にも満たない）再生砕石中には、石綿含有建材片も多く含まれていました。搬出前検査時に、色が付いているもの、板状のもの、タイヤや木材との複合物を調査し、取り除く必要があります。

石綿含有建材は“非飛散性だから安全だ”という話を作業員から聞くことがあります。石綿含有建材を破砕しなければ、もちろん石綿が飛散することはありません（表面劣化を除く）。しかし、家屋を解体する時に、石綿含有建材が割れれば飛散する可能性があります。また、石綿含有建材が中間処理施設に搬入され破砕機に投入された場合も、石綿が飛散する可能性があります。関連する作業者は自らの健康を自ら守るため、石綿含有建材を適正に処理する必要があります。また、そのことが、周辺住民や関連する作業者の健康を守ることににつながるばかりでなく、埋立量の削減、資源の循環につながり、環境保全に役立つことになることを認識することが大切です。